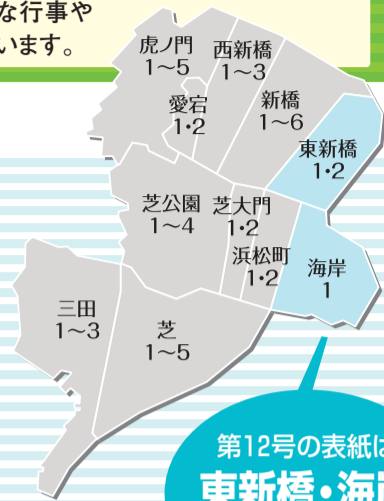
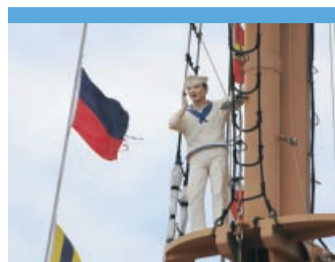


平成21年
8月20日発行

『芝地区地域情報誌』は、地域の皆さんとともに創る情報誌です。芝地区の「いい話」を紹介したり、様々な行事や活動の情報を交換したり、地域の皆さんと一緒に地域のことを考えていく場として、地域情報誌を発行しています。



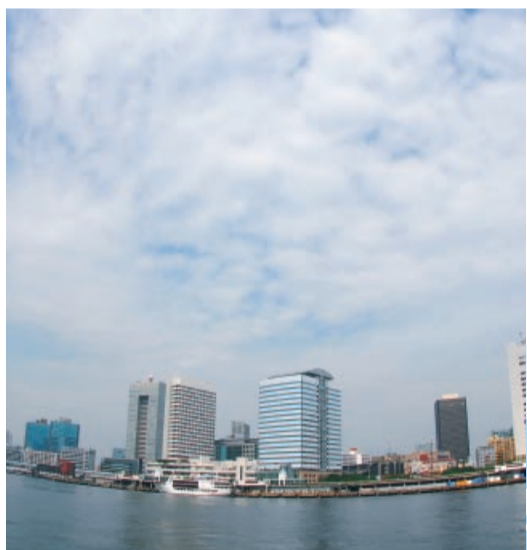
第12号の表紙は
東新橋・海岸
エリアの話題
です



海への玄関口 竹芝ふ頭

info 都立竹芝ふ頭公園
海岸1丁目
●入場無料

- 竹芝ふ頭への行き方 ……………
- JR線…山手線・京浜東北線「浜松町駅」北口から徒歩約8分
 - 地下鉄…都営浅草線・都営大江戸線「大門駅」B2出口から徒歩約8分
 - ゆりかもめ…「竹芝駅」直結



近代的な客船ターミナルや公園、ホテル、海を臨むデッキなど、竹芝ふ頭は伊豆七島、小笠原諸島への玄関口であり、また夏の東京湾納涼船など観光の拠点としてにぎわっています。このふ頭が棧橋として整備されたのは昭和9年(1934)のことでした。きっかけは、大正12年(1923)の関東大震災です。陸上の交通網が壊滅し、国内外から救助物資が海上輸送されましたが、本格的なふ頭がなかったため、陸揚げは困難を伴いました。このことから湾岸の整備が進められました。その後、数回にわたる整備が行われ現在の竹芝ふ頭の姿になったのは、平成7年(1995)のことです。

この竹芝ふ頭のある地域は、現在「海岸」という町名で呼ばれていますが、この「海岸」という町名は、昭和11年(1936)に埋立地にできた町(主に浜崎町、竹芝町、芝浦町、日出町)の名を「海岸通」と改められたのが始まりといわれています。それから昭和22年(1947)には、「芝海岸通」となりましたが、時とともに「海岸」と呼ぶ習慣ができたようです。その後、昭和40年(1965)の住居表示変更の際に、現在の「海岸」という名に改められ現在に至っています。

JR浜松町駅から竹芝ふ頭へ通じる竹芝通りには、海岸のまちを象徴する錨(いかり)や、伊豆・小笠原の各島にちなんだ植物、火山石などが置かれています。多くの人を海原に送り出していった海の玄関口竹芝ふ頭で、遠い島に想いをはせてみてはいかがでしょうか。

港区で楽しむアート

6 そよ風に揺られながら「イタリア庭園」を散策しましょう♪

緑美しい季節になりました。今回はそよ風に揺られながら汐留地区にあるイタリア式庭園の「イタリア公園」を散策しましょう。ゆりかもめ汐留駅から徒歩約5分の場所にあるこの公園は、『日本におけるイタリア年』を記念して平成15年(2003)秋、イタリア・日本の友好親善のシンボルとして、イタリアより寄贈されました。彫刻や噴水、ベンチなどがイタリアから運び込まれた本格的なイタリア式整形庭園です。古典的トスカナ庭園を参考に造園され、園内にある13体の彫刻もトスカナ地方の彫刻家の作品です。シメトリな植栽が見事で、目を楽ませてください。

園内を彩る緑と、白の大理石彫刻群のコントラスト

トが太陽の光に映え、晴れた日には一層美しい庭園を堪能できます。ここまで来たなら、さらに浜松町から築地方面へ足を伸ばし、江戸庭園の2つの華、旧芝離宮恩賜庭園・浜離宮恩賜庭園も見学してみましょう。

港区では、イタリア庭園のように、高層ビル群のはざまに美しい空間がふと垣間見えることがあります。そこでは都心の豊かな緑を満喫できます。都心というのは、実は緑をすごく大切にしている場所なのかもしれませんね。



info 区立イタリア公園
東新橋1-10-20

〔文・写真〕木村 千佳子

文明開化の象徴・最高級洋家具

芝洋家具 聞き書き

幕末維新から明治時代にかけて日本人は西洋の文化、文明を取り込み、ライフ・スタイルが大きく変化しました。例えば、お菓子の羊羹などの和菓子和ケーキやクッキーなどの洋菓子の区別が生まれたように、従来の家具(和家具)と区別される洋家具と云う新しいスタイルの家具、つまり西洋建築に合った椅子、テーブル、応接室用家具、戸棚、箱物(はこもの)等が作られるようになりまし。明治時代初期から長い間、この洋家具を製作するビジネスが、新橋、西新橋、虎ノ門などの芝地区を代表する地場産業であったことをご存じでしょうか。

偶然、先代社長の故神谷 栄氏が実行委員の1人として編集した『芝家具の百年史』(昭和41年(1966)、芝家具商工業協同組合発行、千部限定本)を大丸家具さんから頂きました。内容は、明治時代初期に芝地区で洋家具の製造がはじまり、大正、昭和時代を経て継承されてきた歴史と業界人による聞き書きが載っていました。

確かに、赤レンガ通りの両側に家具屋さんが、戦前と同じように、戦後の復興に合わせて昭和20年代後半には再び数多く並んでおりました。その周辺に家具、関連業種の事業所もたくさんありました。戦後700人余の在校生がいた今は無き桜田小学校を始め、まわりの小学校に家具製作、販売等に関連した職業の子弟たちが多く在籍しておりました。

ところが、長い歴史を刻んできたにもかかわらず、現在芝地区に洋家具を製作する関連の事業所が減少しつつあります。百年史に記録が

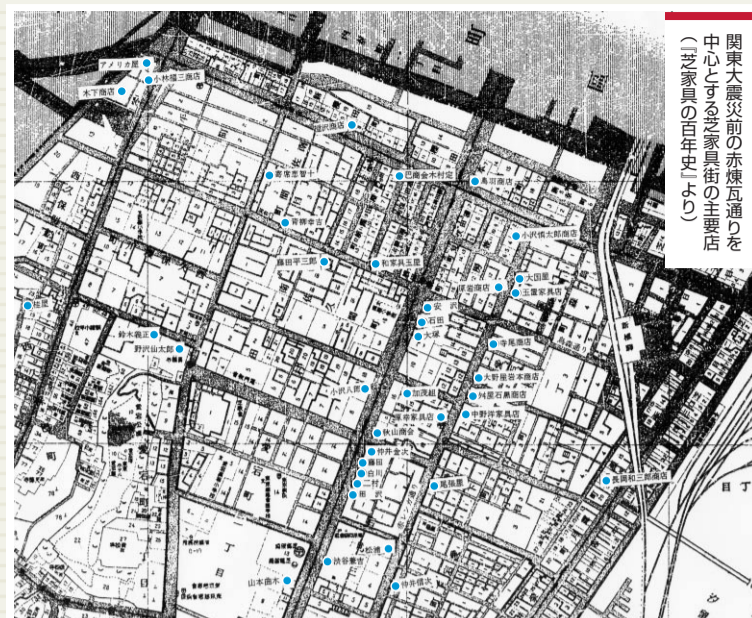
ありますが、今回はその後の芝家具関連の職業の変化の軌跡を、芝家具に長年かかわってこられた青木 雅文、関口 慶二郎、竹島 三雄、畑 幸由の各氏にお集まりいただき、伺ったお話し聞き書きをしました。

◆芝地区の家具業は、製造から販売に至るまでのような仕組みであったのでしょうか。皆さんは先代の跡を継がれたのですか。また、なぜ昔は跡を継がれる方が多かったのでしょうか。

私たちは皆、2代目、3代目です。家具業と云っても、箱や置き戸棚などを扱う箱物屋さん、椅子やテーブルを扱う脚物(あしもの)屋さんなどがあり、さらに釘を使わず無垢(むく)板に「ほぞ」切り、箱などを組み立てる指物屋さん、椅子工作の椅子屋さん、さらに木から脚を形成する挽物(ひきもの)師、木に模様を彫る彫刻屋さん、布や皮革を椅子に張る張(はり)屋さん、塗装屋さん、接着剤として使う膠(にかわ)



芝家具を生み出した道具たち



関東大震災前の赤坂通の芝地区(中川町)の家具街の様子



青木 雅文さん 関口 慶二郎さん 竹島 三雄さん 畑 幸由さん

を扱う膠屋さん、家具用材を扱う材木屋さんや家具用金物屋さん等がありました。

このように芝家具製造関連の業種をいろいろ分業しているのが芝家具製作の仕組みの特徴です。昭和36年(1961)当時、同業者の関連組合が5つあり、芝家具商工業協同組合員数94、芝家具工作共助会員数28、椅子工作協同組合員数37、芝親塗交会員数56、椅子張協同組合員数42で、総会員257人がおりました。昭和44年(1969)頃までは家具関連の事業所が100か所余ありましたが、しかし、今では事業所も数十ほどに減ってしまっており、さらに、現在では組合も椅子張協同組合を除いてすべてなくなり、芝家具業界のまともは以前からあった(社)芝家具協会が行っております。

当時、芝家具製作はほとんどが受注生産でした。挽物屋さんの例で云えば、受注得意先を20か所位もっていて、常に7~8件の仕事をこなしていたよう

です。ですから、営業収入は安定しておりました。受注家具の材木は、集成材や間伐材などを使わず、ナラ、タモ、桜、輸入材のマホガニー、ウォールナット、チーク材などの無垢の高級、良質な木材を使っています。ですから、その材を細工するには技術が必要とされます。

明治時代から営々と築いてきた技術の伝統は水準が高く、一子相伝ではありませんが、師匠から弟子に伝えられました。その技術の習得には経験を積むことがとても大切で、簡単にできるものではありません。例えば、新橋最後の挽物師、青木さんのお父さんは木の回転椅子の胴と脚の接合部分の組み合わせが外れないようにする「蟻」と名付けた特殊な「ほぞ」を作る技術を持っていました。今では、その再現もなかなか難しいようです。椅子屋さんの関口さんは自ら愛宕木工等の青年学校で学び、そのあとで先代の跡を継ぎました。かつて椅子屋さんの竹島さんは、明治時代に輸入家具を手本に洋家具が作られたことになり、今もヨーロッパのアンティーク家具を輸入、修理復元をし、なお洋家具にこだわり続けておられます。また、業界最高功労者表彰を受けた畑さんの新橋木工所は指物を主とし、「良い設計とたしか技術で顧客に満足を」を信条に、多くの優れた職人たちを育てました。

◆受注生産であったとのことですが、得意先はどのようなところでしたか。また家具組み立ての技術のお話が出ましたが、技術力の最盛期はいつごろでしたか。

明治時代の頃から注文先はお役所とか企業で、戦後もその得意先が続いておりました。戦後すぐには駐留軍関係の外国人から多く注文がありました。

芝家具の誇りは、何と云っても、昭和天皇のお椅子を受注させていただいたのを筆頭に、宮家から、またお役所と云えば衆議院、参議院両議長の椅子や、最高裁判所などからも注文を頂きました。良い思い出です。また、企業では、広告会社の脚電通



昭和61年、港区役所に納められ、今なお残る芝家具

の社長室の応接家具など、有名会社から注文を頂きました。港区役所が建て替えましたときに、設計会社からの依頼があり、応接家具、長椅子、飾棚(かざりだな)等を納めました。

経験的技術の伝承とともに家具の製作が設計図に基づくものが多くなり、芝家具職人たちは技能オリンピック全国大会に東京代表として参加しました。昭和39年(1964)から昭和51年(1976)まで、ほぼ毎年1名から2名の芝家具の職人たちが優勝し、何人も国際大会の日本代表を務めました。さらに、昭和43年(1968)から昭和53年(1978)までの間に、関口さん、竹島さんの先代を含め明治から大正初期生まれの芝家具職人たちの中から十数人も卓越技能章受賞者(旧労働省)を出しています。

ですから、芝で修業した職人たちは他所に行っても芝出身の職人として技術に誇りを持っておりましたし、昔から芝家具と云えば高級家具として通っておりました。

◆しかし、戦後の最盛期から現在に至る30年の間に、それまで明治時代から続いてきた家具関連の産業がこの芝地区から減少し、また、復興が難しいのではないかと云われるまでになってしまいました。なぜなのでしょう。

生活や建築が機能を重視するようになったのでしょうか。事務所にはスチール椅子やテーブル

が納められ、集成材や合板製の家具の出現などによる低価格、廉売に注文家具はかなくなりました。需要の減退とともに、無垢の木材の減少、後継者の減少が重なりました。さらに、技術がだんだん継承できなくなりましたので、芝家具の分業システムの連携が部分的にポツリ、ポツリと途切れてしまいました。すると、完成に至るまでの受注家具製作の流れが途切れてしまいますので、もう本当に残念でしかたありませんが、芝家具製作が地場産業として復興するのは難しいと思います。

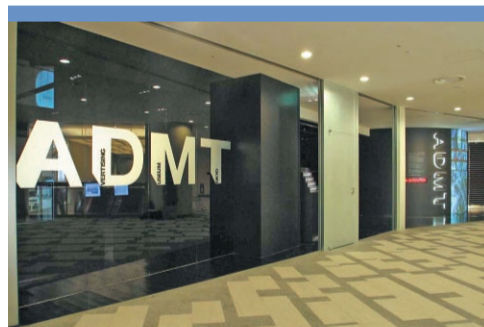
◆終わりに芝家具関連で何かしたいことはありますか。

私たちは家具関連の技術者として、伝統の技を持っているという誇りと芝の地場産業を支えてきたという自尊心で今まで家業を継いできましたが、私たちの世代で終わりになってしまおうと憂えております。こうした技術や芝家具製造の仕組みが無くなるのであれば、これからはその分業システムや私たちの持っている資料や芝家具の技術がどんなものであったか、さらに伊万里焼と同じように芝家具の1つ1つに芝家具または製作者の「銘」を打っておらずに製品が行方が分からなくなってしまうので、先代たちや私たちが作った芝家具、其の物がどこにあるのか等を今なら記録を残せるのではないかと考えています。私たちが最後の芝家具を支えた長老世代になりますので、区や港郷土資料館にもご協力いただき、いろいろな方法で資料や経験を記録として保存し、ぜひ残しておきたいと思ひます。

◆本日はお忙しい中ありがとうございました。幻となった芝家具にまつわるお話を伺いました。

(文 ■ 森 明 / 写真(道具・家具) ■ 張 簡 光輝)

芝家具に関する参考文献
 依 元昭編 『芝家具の百年史 芝家具商工業協同組合 港区役所 港区史 下巻 p415-422, p1215-1221』
 港区立港郷土資料館 資料館だより 第46-48号
 港区立港郷土資料館 研究紀要 第8号 p1-12



アド・ミュージアム東京 (ADMT) 広告の輝きと歴史を一堂に!

アド・ミュージアム東京 (ADMT) 東新橋1-8-2(カレック汐留) TEL 03-6218-2500

●開館時間 11時~18時30分(土曜・祝日は、16時30分まで)
 ●休館日 日曜・月曜(月曜が祝日等の場合、火曜)
 ●入場無料

「アド・ミュージアム東京 (ADMT)」は、カレック汐留の地下1・2階にあります。学芸員の岩本さんは「このアド・ミュージアム東京は、わが国の広告界の近代化と広告の科学化に多大な功績を残した(株)電通第4代社長吉田秀雄の生誕100年を記念して、平成14年(2002)12月に開設されました。広告とマーケティングの総合的な資料館で、広告関連資料の収集・展示、広告の専門図書館の運営は(財)吉田秀雄記念事業財団が行っています」と説明してくださいました。

ADMTには展示施設のミュージアム部門と広告専門図書館があります。入口は、高級インテリアショップのような感じで、右手は広告関連図書やポストカードなどを販売しているショップ、左手に進むと広告とマー

ケティングに関する書籍や雑誌約2万冊を所蔵している、日本でただ一つの専門図書館があります。どなたでも自由に利用できますが、利用者の約65%は会社員だそうです。黒を基調としたエントランスを抜けると地下2階につづくシルバートーンの階段ホールで、この吹き抜けの空間は企画展示スペースとして使用されています。

地下2階には、常設・企画展示スペース(写真左)と検索や視聴コーナー・AVホールがあります。常設展示では、江戸時代から今日に至るまでの世相と広告の歴史が紹介されています。特に20世紀を10年ごとに区切り、ヒット商品や雑誌などで紹介する「20世紀

の社会・風俗・文化」のコーナー(写真右)は、自分たちの生きてきた時代を振り返り、非常に懐かしく、また興味深く楽しいものでした。企画展示は、国内外の有名広告賞の受賞作品の紹介や財団の資料による特別企画展など年間12回ほど開催されています。10月3日までは「広告跳躍時代」展を開催中で、70~80年代に社会や文化を牽引していく大きな力

となった広告をとりあげています。汐留という場所柄に加え、海外で発行されるガイドブックにADMTが紹介されていることもあるのか、外国の方も多く見られ、「20世紀の社会・風俗・文化」のコーナーでは日本のレトルト商品を興味深く見ている姿が印象的でした。

(文 ■ 岩崎 秀顕) (写真提供: アド・ミュージアム東京)



芝活人

さまざまな分野でご活躍されている芝地区の皆さんをご紹介します

「感謝のこころを常に」

言も言いませんでした。妻は大学の1年先輩、開業できたのは彼女のおかげです。子どもには親の愛情が大事と学校行事等に積極的に参加していたね。家族によく尽くしてくれます。正直、感謝です。

治療のポリシーは

患者さんとの信頼関係が一番です。自分の考えや技術を押し付けないのが私のポリシーです。スタッフとの連携、チームワークも治療には欠かせません。スタッフが成長していく姿を見るのは嬉しいものです。

家族が同業ですが、お互いの関係は

医療の基本は学びと実践です。父もいろいろと話をします。85歳でよく頑張っている。歯科医になってやめようと思ったことは1度もない。父も多分同じだと思います。

仕事を離れて思うことは

酒は1滴も飲めません。毎日、きちんと食事をとり、働き、それから睡眠をしっかりとり。丈夫な体をくれた親に感謝です。ドライブや写真も好きです。

父親と妻、娘2人の親子3代にわたって歯科医の道を歩まれている有吉 孝さんにお話を伺いました。家族全員が港区で学ばれており、父子はお2人も正則高等学校の卒業生です。

影響を受けた人は

父です。それから松沢幼稚園(世田谷区)での教え「神様はいつも君たちを見てくださいます」この言葉が一生の宝もの。その幼稚園の先生が賀川豊彦先生*とは後で知りました。最後の教え子であったことが今の誇りです。

親子3代歯科医です

父と同じく正則高等学校から東京医科歯科大学で学びました。跡継ぎを強制された記憶はないですが、他の道であれば建築に進んでいたと思います。娘たちにも個性が違うので歯科医になれとは、一



有吉 孝さん(右)とお父様の重さん(左)

●有吉 孝さんのプロフィール
 医療法人社団有生会代表。歯学博士。昭和23年(1948)、神奈川県湘原町生まれ。杉並区にて幼少期・青年期を過ごし現在に至る。父、妻、子女全員が歯科医。

今は、13歳の老犬のために改築を決意、建築図面に熟中しています。新製品を次々に追うスタイルよりは、修理しながら何十年と同じ物を使う方が好きです。人でも物でもすべてこの世に生まれたことに感謝する心を忘れないようにしています。

(文・写真 ■ 佐藤 剛志)

*賀川氏が大正13年(1924)に発表した「子供の権利」では「子供は大人より小さい。次の時代は子供のものだ。子供が地上に天国を作る」という。平成11年(1999)、国連が採択した「子どもの権利条約」のもと、「子どもの最善の利益を守るリーダー」として、日本人ではただ1人、世界の62人の中に選ばれた。

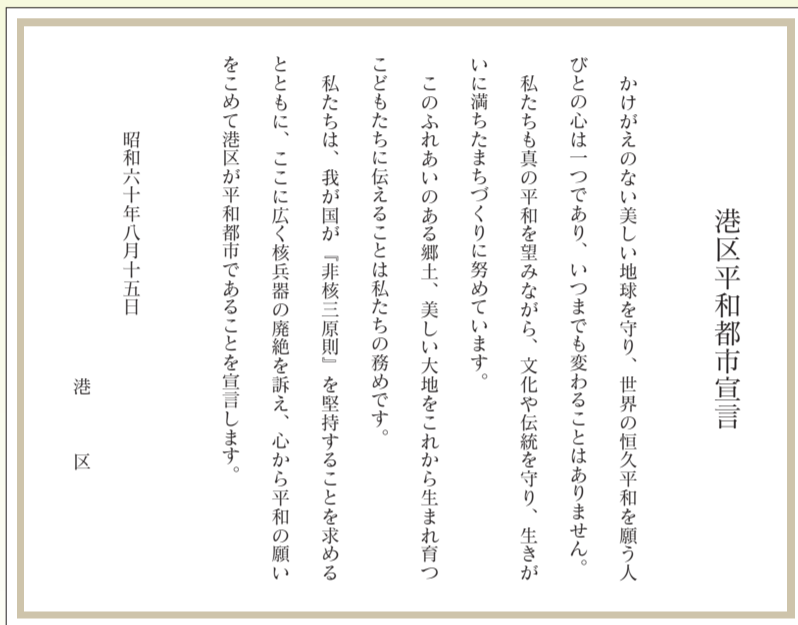
終戦の日をきっかけに

平和の尊さを考える

玉音放送のあった昭和20年(1945)8月15日、わが国にとって終戦の日です。わが国における戦死者は約310万人(歴代政府答弁)とされており、その不幸な時代を乗り越え、今日の日本があり、私たちがいます。

終戦のころ、港区域は連日空襲を受けて大半が焼失。当時の芝区(※参照)では77,000人余の人が被災しています。まさに焼け野原からの復興でした。終戦の日にならば戦争体験に耳を傾けることで、平和の尊さをもう一度考えましょう。

※主に現在の芝地区・高輪地区・芝浦港南地区です。



港区平和都市宣言

かけがえのない美しい地球を守り、世界の恒久平和を願う人びとの心は一つであり、いつまでも変わることはありません。私たちが真の平和を望みながら、文化や伝統を守り、生きがいに満ちたまちづくりを努めています。このふれあいのある郷土、美しい大地をこれから生まれ育つ子どもたちに伝えることは私たちの務めです。私たちは、我が国が「非核三原則」を堅持することを求めるとともに、ここに広く核兵器の廃絶を訴え、心から平和の願いをこめて港区が平和都市であることを宣言します。

Message for Peace

平和への願い

都立芝公園にある『こども平和塔』は、昭和29年(1954)、太平洋戦争で犠牲になられた方々を慰め、世界の恒久平和を願う全国の小・中学生の手によってつくられました。この尊い精神をしのび、地域では毎年7月末に「こども平和まつり」を実施しています。



こども平和塔(都立芝公園)

さきの戦争で麻布・赤坂地区を中心に、全区域の約半分が焦土と化した港区では、区民の皆さんとともに真の平和を求めため、核兵器の廃絶と、世界の恒久平和を願い、昭和60年(1985)8月15日、「港区平和都市宣言」を行いました。それは戦争といういまわしい体験から40年という節目の年であり、宣言には戦争の悲惨さを2度と繰り返してはならないという強い想いが込められています。



平和の灯(区立芝公園)

そして、宣言を行ってから20年目の節目となる平成17年(2005)8月15日、区立芝公園に「平和の灯」が設置されました。平和の灯は、平和都市宣言の「核兵器廃絶と恒久平和の願い」を表現するため、被爆地である広島市の「平和の灯」、長崎市の「ナガサキ誓いの火」、広島市の原爆の火を灯し続けている福岡県星野村の3か所から火を受け継ぎました。平和への想いが込められたこども平和塔、港区平和都市宣言、そして平和の灯…これから先も大切に、ずっと伝えていきたいですね。

人の感情さえも奪ってしまうような悲惨な戦争は二度と起こしてはならない



もちづき りょういち
望月 良一さん
昭和10年(1935)
11月23日生まれ
73歳

人のやさしさを感じた千葉への疎開

私は慶應義塾大学東門から札ノ辻寄りの、三田2丁目の洋服店に生まれました。太平洋戦争が始まったのは赤羽小学校1年生のときです。開戦だと新聞等で大騒ぎでしたが、当時の鮮明な記憶はありません。

戦争によって洋服は統制販売となり、生地は公定価格で、売る値段も決められていました。闇市が横行していた中、私の父は根が生真面目だったので公定価格で販売していました。そんなとき千葉から洋服を買いに来た人に公定価格で売ったところ大変感激され、千葉に来れば心配ないからと疎開の話が出ました。そして、私が小学校2年生の夏、千葉県の八街に母と子ども3人で疎開することになりました。

招いてくれた人が自分の家の庭に小さな家を作ってくれ、そこで生活しました。貧しかったですが、食べるものにそれほど困った記憶はありません。当時は物資が不足していたため、みんな裸足で生活していました。県道が砂利道で、とがった砂利が熱く、とても痛かったことを覚えています。小学校で使うノートもわら半紙程度の紙を綴じたもので、できる限り小さな字で紙一杯に書いて、先生に見

せたら消しゴムで全部消して、また同じところに書きなさいというような指導がありました。紙が不足していたのですね。当時の遊びといえば機銃の葉きょうを拾い、友達と数を競うことでしたが、大人には怒られましたね。

東京に残っていた父に召集令状が来たこともあり、千葉に疎開した翌年の秋には、母親の出身地である広島に移りました。

広島への疎開…多くの命を奪った原爆投下

母親の兄のところ半年間世話になり、その後、広島市内から80kmほど離れた牧という村に兄が別の家を持っていたのでそこに移ることになりました。そこではいよいよ食べ物がなく、つらい思いをしました。

牧に行ってから3か月くらいして、広島市内に原子爆弾が投下されました。昭和20年(1945)のことです。かなりの山奥にも関わらず、障子やガラスが揺れたので不思議に思ったのを記憶しています。悲惨なことに、原爆投下の前日から、村の青年部が全員、大きな集合があるということで広島市内に出かけていたのです。各地から市内に青年部が集まるのをアメリカ軍は知っていたのではないかと思うくらいでした。村に残っていたのは子どもとお年寄り、そして女性だけ。翌日、青年部の救助に村の婦人部(結婚していない若い女性)が市街地に向かったため、婦人部も深刻な被害を受けました。若者がいなくなった村は労働力を失い、非常に苦勞しました。

私自身は現場は見ませんが、そこから人の死体が転がっている状況に慣れてしまうと、その光景が当たり前になり、かわいそうだとか怖いという感情がなくなってしまうとい

ことを後から被災した人に聞きました。人の感情さえも奪ってしまうような、そんな悲惨な戦争は2度と起こしてはくありません。

終戦は小学校5年生のとき、牧の村で迎え、6年生の夏に三田に帰ってきました。街は焼け野原で、バラックだらけの状態でした。木材も何もない状況の中、初めの疎開先の千葉の人が大工さんを連れてきて、無報酬で家を建ててくれたのです。みんな感激して、何度も千葉にお礼に行きました。こんなにも温かい人がいるのだと心から思いました。終戦後の貧しい時代、なかなか考えられないことです。

厳しい言論統制

戦争で疎開する前、まだ三田の家にいる頃から、厳しい言論統制が行われていました。洋服を公定価格よりも高く売っていた同業者が特高警察に連行されたことがありました。その人の話では、地下室に連れ込まれ、尋問され、帰り際に部屋を出て階段を上った時に、言論統制でつかまった何人もの人が手を拘束され、鞭で叩かれているのを見たということでした。それを見て本当に怖かったと言っていました。

言論の自由を奪うことは絶対にあってはなりません。このような、言論の統制などの戦争の怖さは実感しないと分からないものです。何を見ても、どこを見ても同じことが書いてあるというのは恐ろしいことです。いろいろな見方や意見があり、それぞれの立場から自由に表現できるとするのは素晴らしいことです。

表現の自由と、厳しい状況下での人の温かさは、決して忘れてはならない大切なものです。

戦争が終わる気なんてしなかった。女学生の頃の開戦。

いろいろ工夫しました。アメリカの進駐軍が、白い小麦粉を配給してくれるのですが、それだけで食べてしまうともったいないので、ぬかを混ぜてパンにして食べました。パンは木の箱にアルミをはって電気を通して作りました。

また強制疎開の跡地ではナスやトマト、キュウリなどを栽培して食べていました。私は戦後6人の子に恵まれましたが、子どもたちの食べ物を確保するのが本当に大変でした。お米は少ししかないので、さつまいもをご飯に混ぜて炊いたものをよく食べました。当時、焼け残った竹芝小はお米や野菜の配給所でした。

栄養不足で母乳が出なくても、赤ちゃんのミルクは欲しいだけは買えずに、病院で赤ちゃんの体重をはかり、成長に必要な分しか与えられませんでした。衣料は切符がないと買えませんし、足袋も下駄のはなおも自分達でつくりました。

当時、衣食住はほとんど不自由でしたが、心は希望に満ちていました。今は、衣食住には苦勞しない社会になりましたが、皆さんの心は豊かでしょうか。

インタビューを終えて

大変な状況下を過ごしてこられた松本さん。どんな質問にも江戸っ子らしく「からず」と答えてくださいました。「戦争が終わる気なんてしなかったから、戦争中に結婚して新婚旅行もいっちゃった」と笑っていらつやいました。どんな時でも明るく元気でいることの大切さを教えていただきました。【文・写真■小林 真紀子】

※(筆者注)国の戦争体制下における教育方針「国策二協力セシムル実践的教育」の通告が打ち出され、1年を通じて30日以内の日数の授業を廃止して、勤労作業にあたらせることが決められていました。そして文部省(当時)に本部をおく「学徒報国隊」が結成されました。これにより、女学生たちの勤労作業は組織化され、強化されるようになったのです。

芝地区も焦土と化する東京空襲

昭和20年の3月になると東京への空襲が激しくなり、防空頭巾を手放せませんでした。空襲警報のサイレンが鳴ることが、日常のことに、金杉橋あたりにあった防空壕に直接爆弾が落ちて、一家全員亡くなったということもありました。また、東京湾に墜落していく飛行機を何度も見ました。この頃は、夜寝る時もすぐに逃げられるよう準備していたため、寝ている気がしませんでした。

5月には芝地区も攻撃を受け、新橋、浜松町から芝公園、三田の大半が焦土と化しました。この時、増上寺も焼失しました。私も火の手が上がると水の入ったバケツを持って走り回りました。しかし、幸いにも私の自宅は無事でした。都内の親戚や知人が身を寄せ、しばらくは助け合って過ごした思い出があります。

8月15日に終戦を迎えます。私も一緒に玉音放送を聞きましたが、雑音だらけで最初は何のことかわかりませんでした。

食糧難を乗り越えて…

戦後の数年間は、厳しい食料事情のもとい



まつもと とみこ
松本 トミ子さん
大正12年(1923)
9月11日生まれ
85歳

勉強どころではない毎日

小学校6年生の時に2.26事件が起こり、太平洋戦争が開戦したのは女学生の頃でした。兄は3度召集され、最後は鹿児島にいて、昭和20年の10月に帰ってきました。

私は女学校に通っていましたが、勉強どころではありませんでした(※参照)。女学生たちは、軍事工場での作業に動員されたり、学校内では、陸軍の肩章の星をつける作業や、防空頭巾、慰問袋の作製などの作業をしていました。女学校の校舎は戦争中も焼けずに残っていました。

軍人さんにわたす千人針を作製したこともあり、これはお守りとして腹に巻くもので、千人の方が一人ずつひと針縫い付けていく布です。時には苦難を乗り越えたとの願を掛けて穴の開いた10銭のお金を、そして死線を越えたとの願を掛けて5銭のお金を通して縫うこともあり。また、「虎は千里往って千里還る」という縁起をかつぎ、虎年の女性は歳の数だけ縫うこともあり。また、「虎は千里往って千里還る」という縁起をかつぎ、虎年の女性は歳の数だけ縫うこともあり。



暑い日が続きます。芝の家の縁側でちょっと一息、夕涼みでもしていきませんか。

4月の土曜日 朗読会

地域の3人の女性が朗読の腕前を披露してくださいました。子どもも楽しめるモグラのお話から、芥川龍之介の「蜘蛛の糸」まで、話し手のそれぞれに全く異なる声の味わいと見事な効果音の演出があり、みんな物語の中に引き込まれていました。地域の方々への秘めた力を感じた1日でした。



4月末日 救急医療情報キット配付・説明会

地域のお年寄りを対象に救急医療情報キットの配付・説明会を開きました。キットの目的や適切な使い方のほか、慶應大学薬学部の学生(薬剤師さん)たちによる薬の正しい飲み方や、知っている役立つ薬局の便利な利用方法など、寸劇をまじえた楽しい会になりました。救急医療情報キットは、芝の家でも申請や受け取りができます。65歳以上の方や健康に不安を感じている方はどなたでもお申し込みください。

5月 コミュニティ喫茶「月火木」オープン

これまでの水・金・土曜日(13時~18時)のオープンに加えて、5月11日から月・火・木曜日(11時~16時)にもオープンし、日曜日以外は毎日開室することになりました。子どもたちで賑わっているいままでの曜日と違って、月・火・木曜日は大人がゆったりと過ごせる雰囲気です。たとえば今日のランチタイム。いろいろな方がお弁当を持って集まってきました。学生スタッフと一緒にちやぶ台を囲んだり、隣のお母さんが差し入れてくれる味噌汁をお裾分けしたり、お弁当屋さんの情報を交換したり。年齢も立場も異なる方々なのですが、なんだか大家族になったような気分です。100円で利用できるコーヒーや紅茶のセルフサービスコーナーも好評です。

6月晴れの日 なわ跳び日和

最近、芝の家に集まる子どもたちの間でブームなのが「大なわ跳び」です。地域の「まちぐるみ大運動会」が近づき、その花形種目である「大なわ」には、子どもたちも各々の町会の代表として出場します。本番では火花を散らす好敵手同士も、練習ではみんな一緒に和気あいあい。なわ回し役の芝の家スタッフもまじえ、息を合わせて「1、2、3、…」小学校高学年の子たちは、年下の子どもたちに実上手に跳び方のコツを伝授します。「跳べた!」「やった!」の歓声も、梅雨の晴れ間に響きます。

6月の土曜日 持ち寄り食事会「もぐもぐ」

近所のお母さんたちの「またやりたい」というリクエストで、昨年も好評だった持ち寄り食事会「もぐもぐ」の第3回が実現しました。子ども、学生からお年寄りまで幅広い世代が参加。それぞれに自慢の手料理を持ち寄り。美味しいもの話なら、世代が違っても自然と会話が盛り上がります。これまで近所に住んでいながら知り合う機会がなかった方々とも仲良くなりました。まちで出会ったときにあいさつを交わらせる人が増えていくって素敵なおことですね。

初夏のある日 コミュニティ喫茶の一日

午前中、おじいさんおばあさんが散歩や買い物帰りの途中に縁側に腰掛けてちょっと休憩、世間話に花が咲きます。午後、お孫さんのために浴衣を縫うおばあさん。芝から引越すことになったという若い女性。子どもが学校に行っている間にちょっと一息つくママさんグループ。今日もいろいろな方が顔をします。暑いので、老若男女みんなそろって団扇をパタパタあおんでいるのですが、その様子はまるで昭和の光景です。

芝地区昭和の地域力再発見事業拠点「芝の家」
芝3-26-10
TEL 03-3453-0474
●月・火・木 11:00~16:00開室
●水・金・土 13:00~18:00開室
●ウェブサイト: <http://www.shibanoei.net/>

しあわせ健康づくりレシピ

『福祉プラザさくら川』で教えてもらいました!

暑い日が続きますが、皆さんは夏バテ対策はされていますか?
今回は、そんな残暑疲れ予防のための夏料理レシピを求めて、新橋の『福祉プラザさくら川』を訪ねました。お話は施設長の石沢さん、管理栄養士の結城さん、大熊さん、大橋さんに伺うことができました。

建物の愛称が「福祉プラザさくら川」となる、こちらの施設は旧桜川小学校跡地に、法人の理念『自分や家族、友人が利用したいと思うサービスの提供』をめざして平成18年(2006)5月に開設

されました。新橋さくら川(特別介護老人ホーム)・新橋ばらの園(介護老人保健施設)・新橋はつらつ太陽(知的障害者更生施設)の3つの機能が一つの建物に集約された新しい形の複合施設です。ちょうどお夕飯時の取材でしたが、施設を利用されている方々も、そしてスタッフの方々も、とても気持ちよく受け入れてくださり、温かい雰囲気の中で見学をさせていただきました。
1階のガラス張りの開放的な喫茶室「茶房さくら川」は、一般の方も利用することができ、施設の法人本部が新潟県の米所にあるご縁から、その場で焼いたあつあつの手焼きせんべいのメニューも楽しむことができます。

それでは、福祉プラザさくら川の栄養士さんに教えていただいたレシピはこちら!「梅いかそうめん」。イカに多く含まれるタウリンは肝機能を向上させ、梅干しのクエン酸は疲労回復に効果があります。お父さんにうれしいメニューとしてもお勧めで、二日酔いの予防にもなるそうですよ。

(文・写真 ■ 桑原 庸嘉子)

福祉プラザさくら川
新橋6-19-2
TEL 03-3433-0180

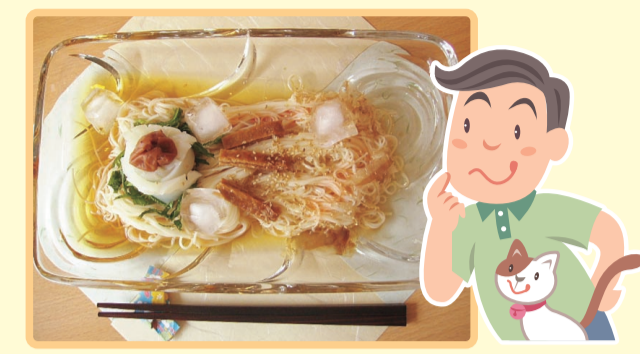


玄関へのアプローチ

喫茶室「茶房さくら川」

夏バテ解消にピッタリ!お父さんにもオススメの

梅いかそうめんです。



(写真提供:福祉プラザさくら川)

材料(1人前)

- そうめん.....乾2束(100g)
- 刺身いか.....30g
- 梅干し.....中2個(15g)
- 青じそ.....葉3枚(5g)
- 麺つゆ.....50cc(濃縮の場合は薄めたもの)
- 白いりごま.....0.5g
- かつおぶし.....2g

☆お好みでとろろ芋、ラー油、おくら、味付け稲荷などを追加してもおいしいですよ!

作り方 (調理時間...お湯が沸いていれば、約7分)

- 1 そうめんを茹でるお湯を沸かす。
- 2 沸くまでの間に青じそを細く切り、梅干しは種をとってからほぐす。麺つゆを希釈して冷やしておく。
- 3 お湯がよく煮立ったら、そうめんを1~2分お好みの硬さに茹で、冷水にさらしてしめる。
- 4 麺を浅めのお皿によそって具を盛りつけ、麺つゆをかけて完成!

SiBA Review.

音の記憶と記録の狭間で

◆歳とともに、記憶の衰えには驚くばかりだ。人名、電話番号、そして漢字。大事な約束は忘れないよう大きく平仮名でメモしたが、それをどこに置いたか思い出せない。それでも人々の記憶の中には決して忘れないものもある。幼い頃のラジオ、テレビから流れた音楽もそんな一つか。
◆港区・愛宕からラジオが大正14年(1925)に、そしてテレビが昭和28年(1953)にそれぞれ本放送を開始した。テレビの開始から数えても半世紀以上が過ぎたことになる。戦前・戦中派はラジオからの「早慶戦」に一喜一憂し、「愛國の花」「曉に祈る」「若鷺の歌」で戦地の家族を思い、そして焼け跡からの復興の中で聴いた「どんがり帽子」「フランチェスカの鐘」「長崎の鐘」「君の名は」「高原列車は行く」に心を癒した当時の記憶は全く色あせることはないだろう。
◆団塊の世代は夕刻に茶の間で聞く「一丁目一番地」「とんち教室」「赤胴鈴之助」「笛吹童子」...ラジオドラマは心をとらえて離さなかったのではないか。
◆そしてテレビがわが家に来た日、それは鮮烈な思い出である。四角い箱から映像とともに流れ出る東京オリンピックの「オリンピック・マーチ」、野球実況で流れる「栄冠は君に輝く」「紺碧の空」「我を覇者」「闘魂こめて」「六甲嵐」「ドラゴンの歌」などなど、今も新鮮な感動を呼び覚ます。さらにNHKの「スポーツショー行進曲」「日曜名作座」「ひるのいこい」「早起き鳥」「今週の明星」を飾るテ

ーマ曲は少年期、青年期、壮年期、熟年期、そして現在も不老青年のごとく歩み続ける。その旋律に懐かしさすらこみ上げる。
◆しかしこれらの曲がたった一人の作曲家によって作られたことを記憶する人は少ないだろう。古閑裕和氏の手による一曲一曲は我々の脳裏に刻まれ、いつでも口ずさめる「人生のお宝」でもある。
◆愛宕のNHK放送博物館、川口市にあるNHKアーカイブスでは、過去に録音された放送記録を無料で視聴できる。しかしそれはごくごく一部であり、戦前・戦後の膨大な音声記録の多くは散逸、あるいは廃棄されてしまってきている。今一度、あの時のあの放送を聴きたいと思っても難しい。書籍と違い音声記録の保存は手間と費用が膨大にかかるためだ。
◆それでもNHK、日本レコード協会等6団体からなる「歴史的音盤アーカイブ推進協議会」が、明治33年(1900)から昭和25年(1950)までにSP盤や金属原盤に録音されたニュース、演説、講演、歌謡、講談、落語、浪曲、ドラマ等約7万音源をデジタル方式で記録、保存し、平成23年(2011)度から全国の図書館やWEBから聴くことができ



新橋駅前のテレビ実験放送風景



昭和30年代、貸テレビの広告も登場した(読売新聞朝刊広告より)



愛宕のNHK放送博物館には昭和の記録と記憶が詰まっている

るよう計画している。奇しくもテレビがデジタルに移行されるその年に。
◆デジタルは美しい映像と音声、多機能が売りだが問題は中味、これからも人々の記憶に永くともどまるものを期待したい。

(文 ■ 佐藤 剛志)

info NHK放送博物館
愛宕2-1-1
TEL 03-5400-6900
●開館時間 9時30分~16時30分(夏季は17時まで)
●休館日 月曜(祝日を除く) ●入場無料

toita women's college ぼくのがぞく3

仕事優先! 私には仕事が大嫌いな...
でも芝美ちゃん、よかったわよね?
そういうのって、人それぞれだ...
お姉ちゃんたちです。

芝次郎の園芸講座

観葉植物を使った やさしい こけ玉づくり

どんな植物でもこけ玉で楽しむことができますが、今回は観葉植物を用いて、長く楽しむこけ玉づくりを目指しましょう!

丸い緑のこけ玉は、心を癒すおしゃれなグリーンとして最近注目されています。芝地区のキャラクター「芝次郎」が、初心者でも無理なくつくれる手軽で失敗の少ないこけ玉づくりの方法をご紹介します。

材料

- こけ(土の上に生えているハイゴケなど、這うタイプが使いやすい)
- 3号ポット植えの観葉植物(初心者向けにはアイビーがおすすめです)
- 黒い木綿糸(ナイロン糸は自然に腐らないので、目立たない色の木綿糸) 約2m

作り方

- 1 こけは霧吹きなどで水をかけ、充分に湿らせておきます。
- 2 こけを裏返し、枯れたこけの層(茶色く枯れた部分)があれば、はさみなどで少し切り取ります。
- 3 3号ポット植えの観葉植物をポットから取り出します。こけ玉の芯は、この根鉢(鉢の形に固まった根と土)を使います。
- 4 観葉植物の伸びすぎた根・巻いている根は切り取ります。
- 5 根鉢を球の形に整えます。(根鉢の肩の土を軽く落とし、底の土も角をくずして丸くします)
- 6 丸まった根鉢をこけで覆い、黒い木綿糸を巻いて、こけを根鉢にとめていきます。(親指で糸の端を押さえ、手前から奥へ糸を巻いていくとやりやすいです)
- 7 根鉢を回しながら何周もしっかりと糸を巻きます。特に株元のこけをきっちり押さえると美しく仕上がります。こけが育てば糸は見えなくなります。
※巻き終えた糸の端は、つまようじなどを使って根鉢の中へ押し込んでおく。
- 8 出来上がったこけ玉を10分ほど水に浸し、しっかり吸収させて、完成です。こけに水分がなじむまで2週間ほどはこまめに水をやりませう。その後は、こけが乾いたら適宜水をかけます。

(監修:日本花の会 大山 久文)

芝地区MAP

本誌に掲載した記事に出てくる施設などをまとめたウォーキングマップとしてご活用ください。

- 1 都立竹芝ふ頭公園 1P
- 2 イタリヤ公園 1P
- 3 アド・ミュージアム東京(ADMT) 2P
- 4 こども平和塔(都立芝公園) 4P
- 5 平和の灯(区立芝公園) 4P
- 6 芝地区昭和の地域力再発見事業拠点「芝の家」
- 7 福祉プラザさくら川 6P 8P
- 8 戸板女子短期大学 6P
- 9 NHK放送博物館 7P
- 10 芝公園保育園 6P
- 11 新橋児童館 6P
- 12 港都税事務所 6P
- 13 JHP・学校をつくる会 国際ボランティア・カレッジ事務局 6P
- 14 浜松町駅北口駅前広場 6P (ハマサイト夏祭り会場)
- 15 愛宕警察署 6P

芝レポート

1

芝公園保育園設立30周年で “園歌”を初お披露目♪

去る7月3日(金)に区立芝公園保育園の設立30周年を祝う会が開かれました。芝公園保育園は、昭和54年(1979)に新橋、愛宕地区の人々の期待を一身に受けて現在地に設立されました。

祝う会では30周年を記念して制作した園歌「芝公園保育園の歌」が、園児たちによってお披露目されました。これは職員が作詞作曲した手づくりの園歌で、専門の音楽プロデューサーがボランティアで編曲を担当、子どもたちの歌声がCDに録音されました。



歌の中には、「げんき、やるき、やさしいき」と年長組による太鼓のリズムが入り芝公園保育園出身の子どもたちがすくすくと成長するように願いが込められています。これから歌い継がれていくことでしょう。

歌の中には、「げんき、やるき、やさしいき」と年長組による太鼓のリズムが入り芝公園保育園出身の子どもたちがすくすくと成長するように願いが込められています。これから歌い継がれていくことでしょう。

info



芝公園保育園
芝公園2-7-3
TEL 03-3438-0435

芝レポート

2

荒馬座コンサート in 福祉プラザさくら川

7月1日(水)福祉プラザさくら川で、新橋児童館の事業が催され、荒馬座という昭和41年(1966)設立の団体によるパフォーマンスが披露されました。エイサーという踊りでスタートしたコンサートは、陽気なリズムに乗ってみんなで両手を上げて左右に振ったり、みんなで掛け声を合わせたり。力強い太鼓の音は、会場だけでなくお腹の中まで響いてきます。

続いて迫力ある獅子舞が披露されました。お客さんの間を練り歩き、噛み付こうとする獅子に子どもたちは「キャーキャー」言いながら怖がっていましたが、途中からは大喜びで獅子に群がっていました。

北海道のソーラン節の際には、子どもたちから「知ってるー」「保育園で踊った!」などの声があがり、お客さんの中から選ばれた3人が荒馬座のメンバーと一緒に太鼓を叩きました。見事な演奏にお客さんは拍手喝采! こうしてコンサートは盛大な拍手のうちに幕を閉じ、皆さん大満足の様子でした。



info



新橋児童館
新橋6-4-2
TEL 03-3433-4005

(会場: 福祉プラザさくら川 新橋6-19-2)

都税についてのお知らせ

主税局イメージキャラクター
タックス・タクちゃん



昨年度に引き続き、平成21年度も 23区内の小規模非住宅用地の 固定資産税・都市計画税を減免します

減免対象

一画地における非住宅用地の面積が400㎡以下であるもののうち、200㎡までの部分
ただし、個人又は資本金等の額が1億円以下の法人が所有するものに限りません。

減免割合

固定資産税・都市計画税の税額の2割

減免手続

減免を受けるためには、申請が必要です。
まだ申請をしていない方で、小規模非住宅用地を所有していると思われる方には、7月下旬に「固定資産税の減免手続きのご案内」をお送りしております。減免の要件を確認のうえ、12月28日(月)までに申請してください。

※前年度に減免を受けた方で用途を変更していない方は、新たに申請する必要はありません。

●問い合わせ先 港都税事務所 TEL 03-3453-3211(代)

学生・社会人の皆さん!

国際協力実践講座に参加しませんか?

小山内美江子 国際ボランティア・カレッジは、「JHP・学校をつくる会」代表小山内美江子さんの国際協力に対する理念と経験、並びにJHPが活動するカンボジアに関する知識を活かして、国際協力や国際理解、その他NGO等の理解に役立つ講座、またカンボジア研修など、学びと体験の場を提供しております。現在、第4期生を募集しています。また、聴講生として1講座からの受講もできます。

【日 程】2009年9月~2010年3月

【参加条件】18歳以上

【定 員】30名

【主催団体】JHP・学校をつくる会

【開催場所】港区内施設

【問い合わせ先】JHP・学校をつくる会 国際ボランティア・カレッジ事務局
担当 池谷・木村
港区芝5-26-16 読売理工学院ビル6F
TEL: 03-6435-0812 / FAX: 03-6435-0813
E-mail: college@jhp.or.jp

【URL】http://www.jhp.or.jp/college/index.html

〈ハマサイトの夏祭り〉に 出掛けてみませんか。

日時 8月28日(金) 昼12:00~14:00/夜18:00~21:30

場所 浜松町駅北口駅前広場 汐留ビルディング周辺

内容 盆踊り、ライブ、グルメ屋台



〈ハマサイトの夏祭り〉は、汐留ビルディング並びに浜松町駅北口駅前広場の完成を機に、近隣の皆様・在勤者との交流を図り、『浜松町・大門エリアの活性化』『街の発展』に少しでも貢献できればとの思いから、海岸一丁目町会並びに汐留地区街づくり連合協議会を主催者として2008年より開催しております。

汐留シオサイトの浜松町側ゲートのお祭りということで〈ハマサイトの夏祭り〉と銘打って、浜松町駅北口の夏の風物詩としての定着を目指し、毎年8月末の開催を予定しております。

「みなとコール」は 暮らしの疑問にお答えします!



区役所のサービスや施設案内、催し情報など、お気軽にお問い合わせください。
年中無休/午前7時~午後11時

※英語での対応もいたします。

ココロ(は)ナニニ ミナト(コールです)

TEL 03-5472-3710

FAX 03-5777-8752

Eメール: info@minato.call-center.jp

警視庁犯罪被害者 ホットライン

被害者や家族の相談窓口です。

迷わずに
勇気を出して
相談してください



匿名でもOK

秘密厳守

お気軽に

TEL 03-3597-7830

FAX 03-3592-6840

愛宕警察署

芝地区地域情報誌・編集委員を 募集しています!



芝地区の話題を
発掘し、取材していただく
地域情報誌・編集委員(記者)
を募集します

【対 象】芝地区管内に在住、在勤、在学で取材に携わりたい人

【内 容】地域の話題の収集、取材、写真撮影、原稿作成など(年間4回発行予定)1回の取材などで平日の昼夜間に2時間程度、発行予定ごとに平日夜間、1回編集会議への参加があります。

【申し込み】氏名、住所(在勤、在学の方は所在地)、連絡先、在住・在勤・在学の区別を明記の上、下記の芝地区総合支所協働推進課まで、FAXまたは郵送で申し込みください。

【その他】報酬等の支払いはありません。

★本誌の制作には以下の編集委員が参加しています。

伊藤泰子/岩崎秀顕/大澤佳枝/小知和千佳子/桑原庸嘉子/小林真紀子/佐藤剛志/柴崎賢一/張簡光輝/森明

★また今後の発行スケジュールは次の通りです。

H21.11.20発行(第13号)、H22.2.20発行(第14号)

芝地区地域情報誌の配布について

芝地区総合支所【芝、海岸1丁目、東新橋、新橋、西新橋、三田1~3丁目、浜松町、芝大門、芝公園、虎ノ門、愛宕】内の地域の方にお届けしているほか、地区内各施設にて配布しています。

【お詫びと訂正】・第10号1頁掲載の「姫路から鉄道発祥の地へ」の記事中の表記「岡山県姫路市」は、正しくは「兵庫県姫路市」でした。

・第11号6頁掲載の「昭和一杯の心意気を露月町とともに…」の記事中の表記「第2京浜国道」は、正しくは「第1京浜国道」でした。ここに訂正し、お詫び申し上げます。

港区芝地区総合支所協働推進課

所在地: 〒105-8511 東京都港区芝公園1丁目5番25号(港区役所2階)

TEL: 03-3578-3192 FAX: 03-3578-3180

ホームページ: http://www.city.minato.tokyo.jp/sisyo/siba/